

高等部 工芸グループ 作業学習指導案

1. 単元 『心のこもった製品を作ろう』

2. 指導についての考え方

○生徒の実態

本グループは、1年生〇名、2年生〇名、3年生〇名の計〇〇名（男子〇名、女子〇名）で構成されている。これまでの作業の中で、生徒たちは、革工芸の基本工程（たがね打ち→下色塗り→磨き→上色塗り→磨き）に取り組み、作業の手順や流れが理解できている。さらに仕上げの工程（貼り合わせ、コバ塗り、裏色塗り、仕上げ剤塗り、紐通し）に挑戦する生徒もいて、革工芸の作業にずいぶん慣れ、徐々に完成製品も増えてきている。しかし、個人の興味や関心、技能、各工程の経験の有無など、工芸の作業に関する実態は多岐にわたっている。生徒の障がいの種類や程度も様々であり、知的障がいだけでなく、自閉症など多種にわたっている。また、発作があり、いつ起きるのか常に表情を観察する必要がある生徒や不登校など精神面でのケアが必要な生徒もいる。支援の面においても、作業の手順を理解し、簡単な指示のみで作業に取り組める生徒から、かなりの動作補助などを要する生徒まで様々である。

○単元設定の理由

本グループが取り組んでいる革工芸は、作業内容が様々な工程に分かれており、生徒の実態に応じて、個々に適した作業を見つけることができる。また、短時間で済む工程や終わりがはっきりしている工程が多いため、見通しを持って作業に取り組むことができる。基本工程では、数多くのたがねや染料を使い、模様や色などを選択しながら行えるため、生徒が興味を持って、意欲的に作業に取り組むことができる。仕上げの工程は、全員が同じ作業に取り組むことは難しいので、個々が得意とする工程を分担する事で、製品完成の見通しが持ちやすくなり、バザーに向けた製品作りに意欲が持てると考えられる。

○支援にあたっての考え方

学習内容の工夫

デザインや色を自由に選べるようにすることで、生徒が興味を持ち、意欲的に作業に取り組めるようにする。

学習集団の工夫

生徒が作業に関わる実態が多岐にわたっているため、全員が同じ作業に取り組むことは難しい。いろいろな作業工程を経験することを目標にするが、一人で全ての工程に取り組む、得意な工程を分担し合って、協力して製品を仕上げるなど、実態に応じた作業内容になるように配慮する。

学習環境の工夫

必要な道具の置き場所や、作業途中の製品を入れる工程ごとの名称を書いたかごなどの場所を固定する。また、引き出しや棚に、道具名や材料名を記し、何が入っているのかわかるようにする。これらのことにより、生徒が一人で準備できるようにするとともに、次の作業工程がわかるように工夫する。

3. 単元目標

- ・作る喜びを味わい、楽しく作業に参加しようとする。
- ・挨拶、返事、報告をすることができる。
- ・準備や後片付けがきちんとできるようになるとともに、道具を正しく、安全に使うことができる。
- ・作業の工程を理解し、集中して取り組み、持続しようとする。
- ・確実で、丁寧な作業を心がけたり、質の高い製品の製作を目指したりする態度を育てる。

4. 生徒の実態と目標

| | A男(○年) | B女(○年) |
|------------|---|---|
| 個別の指導計画の目標 | <ul style="list-style-type: none"> 一人のできる作業の工程を増やす。 作業の中で、体のバランスの保持や手指を動かす力を少しずつ高める。 手元に視線と注意を集中して作業が行えるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> 色々な作業を体験する。 作業に関心を持ち、技能の向上を図る。 作業の報告ができる。 |

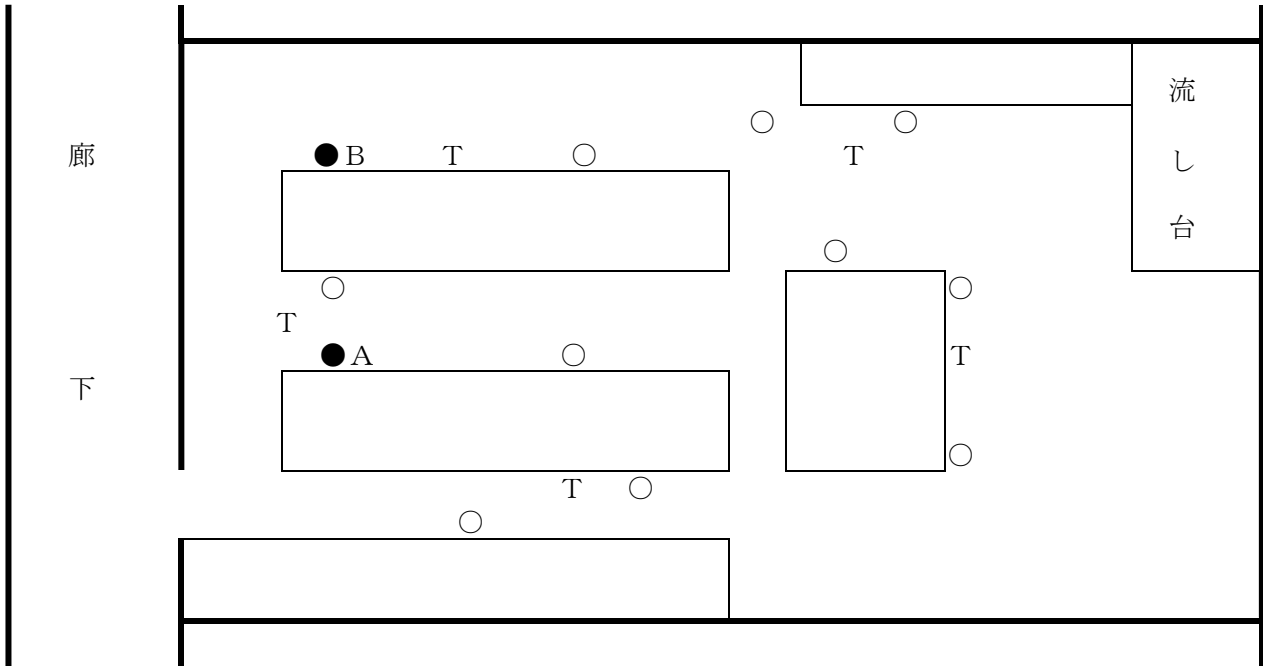
| | | |
|----------|---|--|
| 単元に関わる実態 | <ul style="list-style-type: none"> 作業に対して、嫌がることなく楽しみながら取り組むことができる。 左手に軽い麻痺があることなどから、各工程を全て一人で行うことは難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の作業工程を理解し、作業に取り組むことができる。 基本の各工程に合わせて道具を準備することができる。 集中して、根気強く作業に取り組むことができる。 |
| 単元の個別目標 | <ul style="list-style-type: none"> 作業の各工程の中で、たがね打ちを少しでも一人のできるようになる。 たがねや染料を自分で選択できるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本工程を覚える。 自分の作業工程を理解し、作業に取り組む。 正確に作業し、報告や返事をはっきりする。 |
| 支援の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> たがねをきれいに打つために補助具を用いたり、教師が補助を行う。 気持ちを落ち着かせ、楽しみながら作業に取り組めるように、適宜、声かけを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 工程表写真を提示したり、写真カードを利用したり、手話や指文字を使用する。 一人で取り組めるように、予め線や印を入れておく。 チェック表を準備し、報告した後に、正確にできたかどうか振り返らせる。 |

5. 指導計画

| | | | | |
|------|---|--------|--|----------------------|
| 月 | 10 | 11 | 12 | 1 |
| 作業内容 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">製品作り</div> <ul style="list-style-type: none"> ・キーホルダー ・ペンケース ・印鑑ケース ・カードケース ・ベルト ・花ばさみカバー ・マグネット <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">後 期 実 習</div> | 本 時 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バザー準備</div> <ul style="list-style-type: none"> ・製品の仕上げ ・値札付け ・値段表示作り ・製品の陳列の方法 | ○ ○ バ ザ |

6. 本時について

○場の設定 プレハブ 工芸作業室



○準備

| | | | | | | | | |
|-------|--------|----------|--------|-----|-------|-----|-----|----|
| 基本工程 | たがね打ち | たがね | 木づち | 水 | うつわ | 打ち台 | しき布 | 刷毛 |
| | 下色塗り | 染料 | 刷毛 | 新聞紙 | うつわ | | | |
| | 磨き | 磨き布 | (タイマー) | | | | | |
| | 上色塗り | 染料 | タンポ | 新聞紙 | 皿 | | | |
| | 磨き | 磨き布 | (タイマー) | | | | | |
| 仕上げ工程 | 貼り合わせ | ボンド | 新聞紙 | 厚紙 | つまようじ | | | |
| | 裏塗り | 刷毛 | トコノール | 新聞紙 | 拭き取り布 | 乾燥台 | | |
| | コバ塗り | つまようじ | 厚紙 | 新聞紙 | 拭き取り布 | 乾燥台 | | |
| | 紐通し | 革ひも | | | | | | |
| | 仕上げ剤塗り | レザーバインダー | レザーコート | 刷毛 | 新聞紙 | 乾燥台 | | |

○本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分の作業内容がわかり、集中して持続的に取り組む。
- ・時間いっぱい作業に取り組むことができる。

(2) 展開

| | めざす姿 | 評価の観点 |
|---|---|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・たがね打ちの道具を自分で準備する。 ・模様がぶれないように気をつけてたがねが打てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・7つの道具を全て準備できる。 ・補助具を使って、たがねが打てる。 |
| | 学習内容と活動 | 支援の工夫 |
| | <p>1. 始めのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当番は、前に出てきて号令をかけ、出欠を確認。 ○スローガンを言う。 <p>2. 作業内容と担当教師の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担当教師を確認。 ○本時の作業内容を決め、「今日の作業」に自分の名前カードを貼る。 ○作業における注意事項を聞く。 <p>3. 作業をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要な道具を準備。 ○たがね打ち。 <p>4. 後片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○使った道具を所定の場所に戻す。染料がついた皿と刷毛はきれいに洗う。 <p>5. 終わりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次時の予告を聞く。 ○当番は前に出てきて号令をかける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつができるように促す。 ・当番に注目するように促す。 ・「心のこもった製品を作るぞ。丁寧にやるぞ。工芸V！」と、声をそろえて言い、意欲を喚起する。 ・できるだけ一人で作業に取り組むこと、困ったときは担当の先生に聞くことなどを伝える。 ・写真カードを使って、作業内容を確認し、作業欄に名前カードと一緒に貼る。 ・バザーに向けてたくさん作ることを、丁寧な作業で質の高い製品を目指すことを伝える。 ・必要な道具を準備するよう、声かけをする。場合によっては、一緒に準備する。 ・模様がぶれないように、補助具を準備する。 ・片付けが不十分な場合は、声をかけて一緒にやり直しをする。 ・次回の作業内容について簡単に説明する。 |

(2) 展開

| | めざす姿 | 評価の観点 |
|---|---|--|
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・碁盤の目状に補助線を引いた枠の中心に、たがね打ちができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・枠から出ずに、たがねが打てる。 |
| | 学習内容と活動 | 支援の工夫 |
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 始めのあいさつをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○当番は、前に出てきて号令をかけ、出欠を確認。 ○スローガンを手話身振りで行う。 2. 作業内容と担当教師の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○担当教師を確認。 ○本時の作業内容を決め、「今日の作業」に自分の名前カードを貼る。 ○作業における注意事項を知る。 3. 作業をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○必要な道具を準備。 ○各自の作業内容に取り組む。 ○困った時、終了した時は担当教師に報告。 ○振り返り。 4. 後片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○使った道具を所定の場所に戻す。 5. 終わりのあいさつをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○次時の予告を聞く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・元気にあいさつができるように促す。 ・当番に注目するように促す。 ・「心のこもった製品を作るぞ。丁寧にやるぞ。工芸V!」と、身振りや手話の動作をして、意欲を喚起する。 ・できるだけ一人で作業に取り組むこと、困ったときは担当の先生に聞くことなどを伝える。 ・写真カードを使って作業内容を確認し、名前カードを貼る作業欄の場所を示す。 ・本時の作業内容を、工程表写真や写真カードで提示し、正確に作業することを伝える。 ・必要な道具を写真カードで提示する。 ・一つの工程毎に確実に終了報告することを伝える。 ・報告を受けて一緒に振り返り、チェック表に○、×の記入をし、たがね打ちの結果を確認させ、次の作業を伝える。 ・途中、終了報告ができるように促す。 ・所定の場所に確実に戻せたかどうか確認する。 ・次回の作業内容について簡単に説明する。 |